



第1章
策定にあたって

1 倉敷市第七次総合計画について

1-1 総合計画とは

総合計画は、わたしたちのまち倉敷市のめざす将来像とその実現に向けた施策を表したもので、まちづくりの指針となるものです。倉敷市では、昭和45(1970)年以来、六次にわたり総合計画を策定し、まちづくりの施策を進めてきました。

昭和45(1970)年度～昭和50(1975)年度	倉敷市振興計画	
昭和51(1976)年度～昭和55(1980)年度	倉敷市新総合計画	
昭和56(1981)年度～平成 2(1990)年度	倉敷市第三次総合計画	
平成 3(1991)年度～平成12(2000)年度	倉敷市第四次総合計画	新時代を拓く交流と共鳴の舞台「倉敷」
平成13(2001)年度～平成22(2010)年度	倉敷市第五次総合計画	市民と創るこころゆたかな倉敷の未来
平成23(2011)年度～令和 2(2020)年度	倉敷市第六次総合計画	自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷

総合計画の策定については地方自治法により定められていましたが、平成23(2011)年5月の法改正によって策定義務はなくなり、各自治体において判断できることになりました。

現在、倉敷市では、人口減少に対応するための地方創生への取組やSDGs(3頁参照)の推進、そして、何よりも平成30年7月豪雨による未曾有の大災害からの1日も早い復興という大きな課題に向き合い、取組を進めています。また、新型コロナウイルスなどの新たな脅威からも市民生活を守り、活力ある未来へとつなげていかなければなりません。

そのため、今後の10年間(令和3(2021)年度～令和12(2030)年度)を区切りとして、新たな倉敷市のまちづくりの指針が必要であると考え、「倉敷市第七次総合計画」を策定することとしました。

1-2 計画の特色

1 「将来像」と「めざすまちの姿」の実現に向けて わかりやすい総合計画

子どもから高齢の方まで、どの世代にも望まれるような「倉敷市のめざす将来像」と「めざすまちの姿」を明示し、市民、企業、団体、行政などが、その実現に向けての目標や取組が共有できるよう、わかりやすさを重視した計画づくりに努めました。

2 市民の声を生かす総合計画

第六次総合計画の策定時、多くの市民からの意見によって47の「めざすまちの姿」を抽出し、計画策定の基礎としました。これは、まちづくりのめざす方向性として、10年を経て変わるものではありません。そのため、第七次総合計画の策定においてもこの内容を基礎として、さらに、市民アンケートや、高校・大学など、若い世代への調査を重点的に行うことで、より幅広く市民の声を生かした計画となるように努めました。

3 人口減少社会を踏まえて市の活性化をめざす 「倉敷みらい創生戦略」を組み込んだ総合計画

倉敷市第七次総合計画は、市の最上位計画として10年間の長期方針を定め、基本構想や基本計画を設定し、具体的に実施する取組を実施計画として整理しています。そして、倉敷市が将来にわたって活力ある地方都市として持続するためには、人口減少という大きな課題に対応し、地方の活性化をめざす(「地方創生」という)取組が重要となります。倉敷市では、地方創生の取組方針として、総合計画とは別に「倉敷みらい創生戦略」を策定していましたが、第七次総合計画では、この「倉敷みらい創生戦略」を組み込んだものとし、総合計画のどの部分が「倉敷みらい創生戦略」に該当するものかを明確に示すこととしました。

4 SDGsの理念を取り入れた総合計画

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。世界にある課題をみんなで解決し、将来にわたって続くよりよい世界をめざすため、平成27(2015)年の国連サミットで採択された令和12(2030)年を年限とする国際目標です。

地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、「貧困をなくそう」など17の目標(ゴール)と、「令和12(2030)年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にあるすべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる」など169の達成基準(ターゲット)から構成されています。日本でも、国を挙げて積極的にSDGsの取組を進めており、倉敷市はSDGsの達成に向けた優れた取組を行う都市として、国から令和2(2020)年7月に「SDGs未来都市」に選定されています。

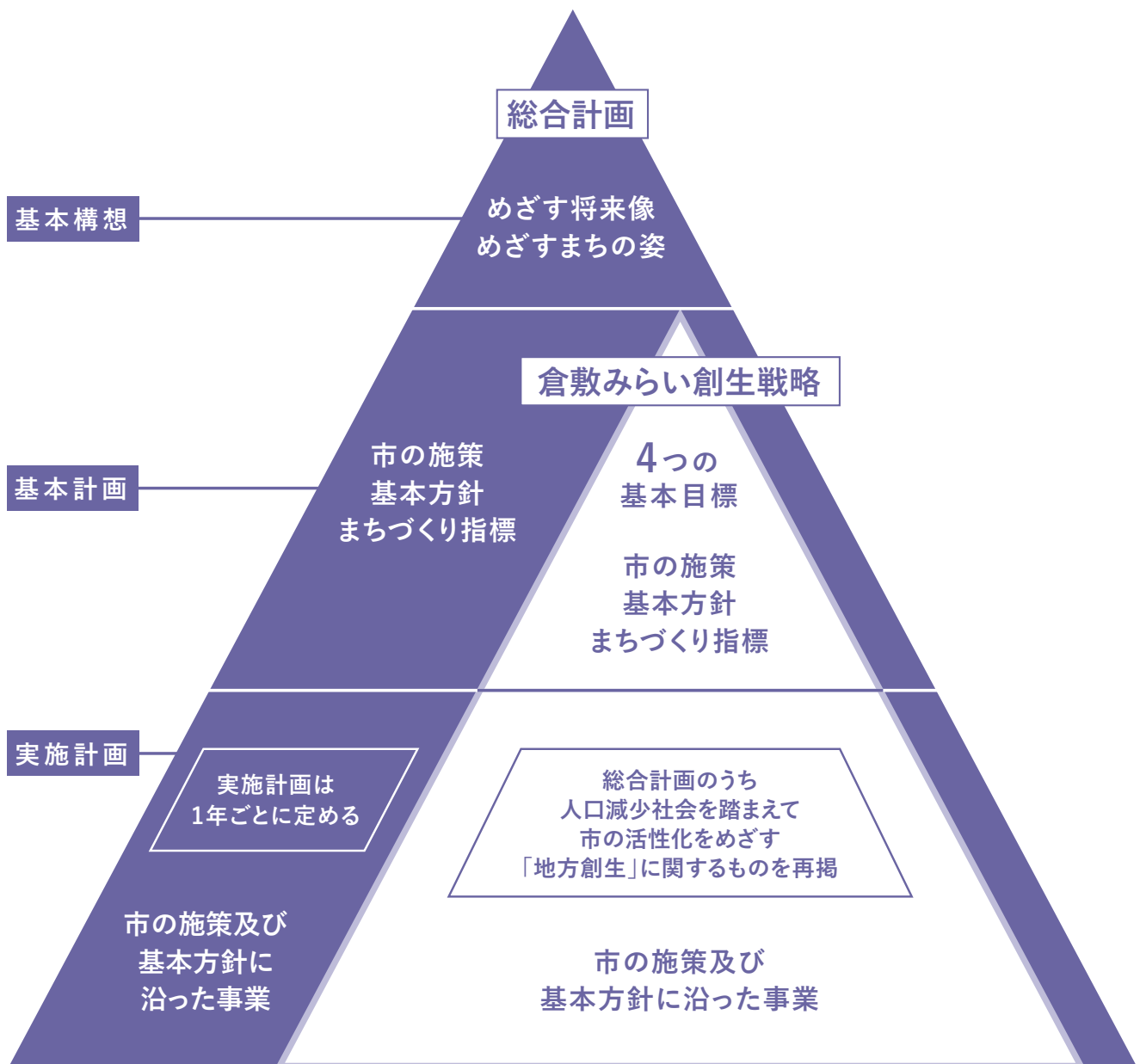
倉敷市第七次総合計画は、計画最終年がSDGsの年限と同じ令和12(2030)年となっており、SDGsは持続可能なまちづくりに取り組むために必要な理念であることから、この理念を踏まえ、世界で定めた目標につながる計画として策定しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1-3 計画の構成と期間

倉敷市第七次総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画で構成し、基本構想及び基本計画の期間は令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間とします。また、この基本計画に紐づく具体的な取組を記した実施計画は、PDCAサイクルにより毎年度見直しを行います。さらに、総合計画の中で、特に人口減少社会を踏まえて市の活性化をめざす地方創生に関する基本計画と実施計画部分を令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間の「倉敷みらい創生戦略」と位置づけ、5年後に見直しを図ります。



1 基本構想:10か年

基本構想は、「倉敷市のめざす将来像」を掲げるとともに、「めざすまちの姿」を示し、まちづくりの方向性を明らかにしています。

2 基本計画:10か年

基本計画は、基本構想を具体化し、目標を実現するために必要な市の施策、基本方針やまちづくり指標を明らかにするものです。また、基本計画のうち、地方創生に関する取組については「倉敷みらい創生戦略」の計画としても位置づけています。

なお、社会経済情勢の変化などにより必要な場合は5年を目途に一部修正を検討します。

3 倉敷みらい創生戦略:5か年

人口減少社会を踏まえて市の活性化をめざす地方創生に関する取組については、該当する総合計画の基本方針やまちづくり指標を抽出し、「倉敷みらい創生戦略」として、4つの基本目標に沿って整理し、まとめています。

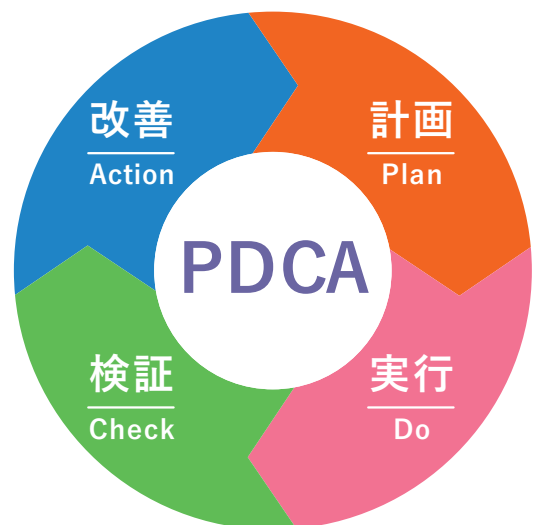
4 実施計画:1年ごとの見直し

実施計画は、基本計画に掲げている、本市が持続的な発展を続けていくために必要な、市の施策や基本方針に沿った取組や事業について整理した計画としています。また、実施計画のうち、地方創生に関する取組については「倉敷みらい創生戦略」の実施計画としても位置づけています。

1-4 計画の進捗状況の管理

めざすまちの姿の達成度を客観的に見ることができるよう、重要業績評価指標(KPI)をまちづくり指標として設定しました。文字どおり、目標達成のための「重要な業績の評価(Key Performance Indicator)」のことで、5年後、10年後の目標値を設定しています。

これらの目標を達成するために、アクションプランとなる実施計画を毎年度策定し(Plan)、実施計画に従って着実に事業を実行していきます(Do)。各指標に対する進捗状況や実績値は毎年度定点観測し、計画どおりに進まなかった場合はその原因を、計画どおり進んでいる場合もその要因を評価・検証します(Check)。さらに、どの施策を重要視すべきか、より効果的な事業を展開できないかなど、施策の重点化や事業の見直しを行い(Action)、翌年度の実施計画に反映させます(Plan)。



2 わたしたちのまち 倉敷市

2-1 倉敷市の概要

1 倉敷市民憲章

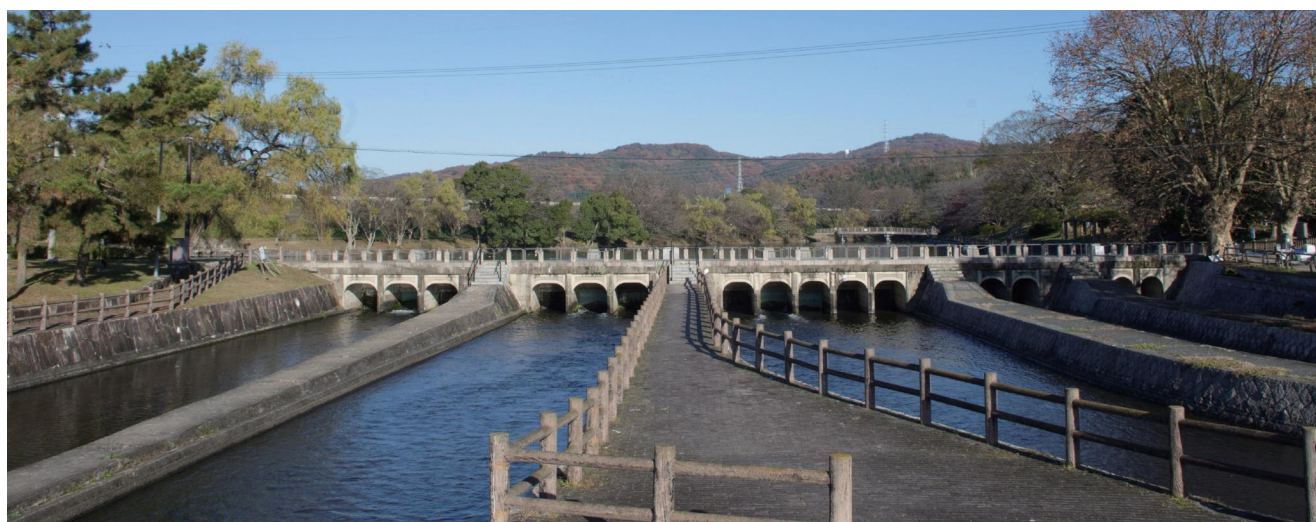
倉敷市民憲章は、市民生活の指針、行政の指針となるものです。第七次総合計画は、市民憲章の理念に沿って取組を進めています。

倉敷市民憲章

私たちは、日本のふるさと瀬戸内海と
母なる高梁川にはぐくまれ、
古い伝統と洋々たる未来にかがやく
倉敷市民の誇りをこめて

- 自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります。
- 人間をたいせつにし、青少年には夢、老人には安らぎのあるあたたかい社会をつくります。
- 秩序を守り、平和で安全なまちをつくります。
- 働くことによるこびをもち、明るく健康な家庭をつくります。
- 教養を高め、世界と通じ、個性ある文化をつくります。

(昭和47(1972)年2月1日制定)



高梁川東西用水取配水施設

2 市章と市木・市花・市の鳥



市章

【昭和42(1967)年制定】

倉敷の「クラ」を図案化したもので、横へ広がる翼は瀬戸内経済圏の中核都市として、産業・文化・観光の調和ある住みよい理想都市をめざして飛躍発展する姿を表します。

また、円は市民の団結と融和を象徴しています。



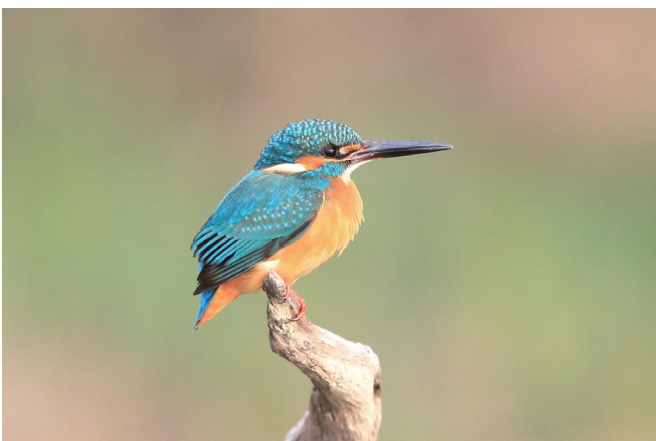
市木『くすのき』

【昭和46(1971)年制定】



市花『ふじ』

【昭和46(1971)年制定】



市の鳥『カワセミ』

【平成15(2003)年制定】

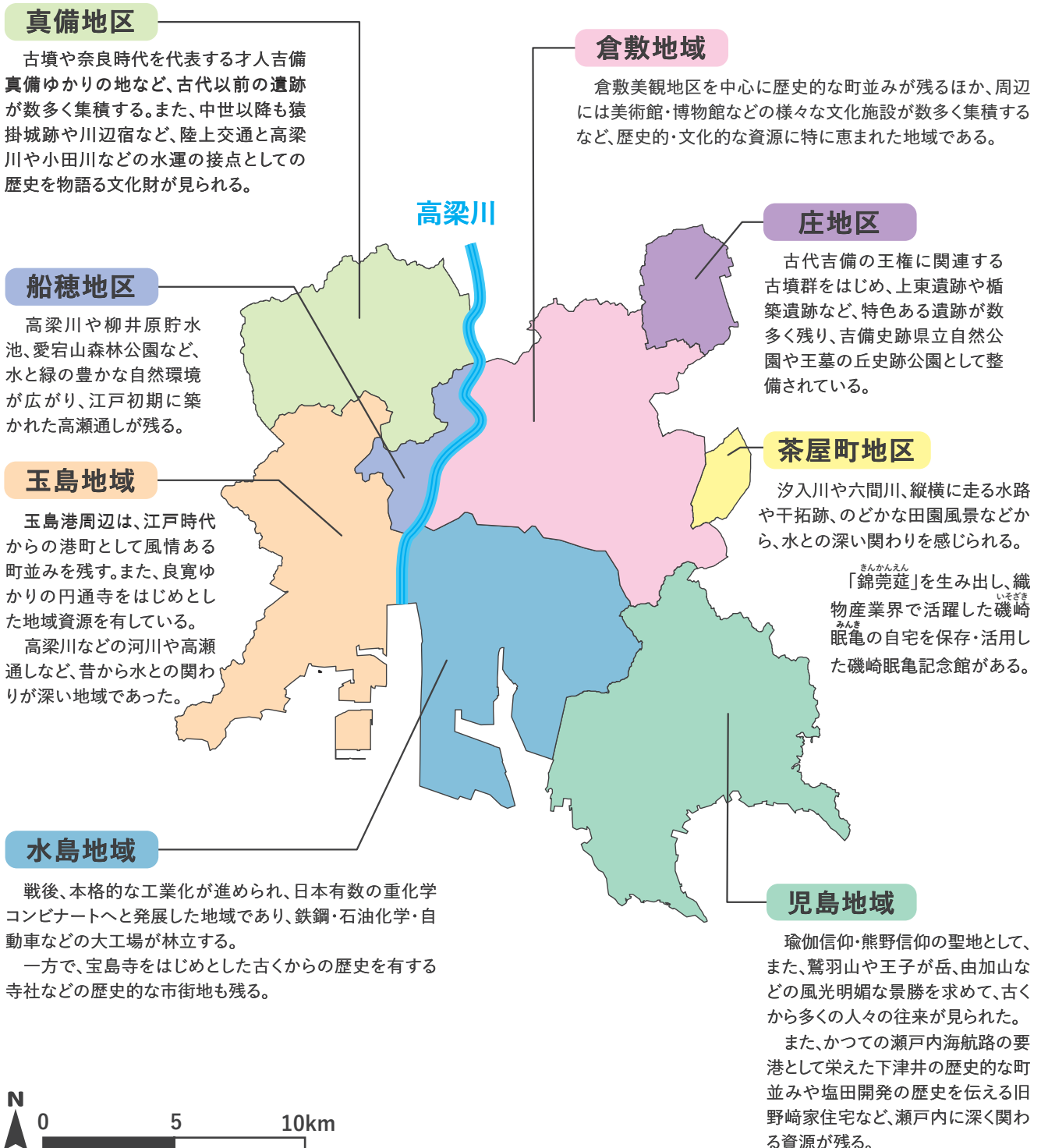
3 人口と面積

倉敷市の人口は、令和2(2020)年12月末時点で、481,537人です。中国地方においては、広島市と岡山市に続いて、3番目に大きな人口規模となっています。

また、倉敷市の面積は355.63km²(令和2(2020)年10月1日時点)で、岡山県内では、8番目の大きさの市域を有しています。

4 倉敷市内の各地域・地区

● 長い歴史が現代に紡がれた各地域・地区



5 高梁川流域7市3町の連携

● 高梁川の流れとともに、未来に続く流域の成長と発展をめざして



古来からたゆみなく流れる高梁川の恵みを共有し、ともに生きる、「高梁川流域圏(7市3町)」は、古くから地域間の結びつきが強く、昭和29(1954)年には、全国でも珍しい川をつながりによる官民連携組織「高梁川流域連盟」を設立し、流域の文化向上に資する取組を行っています。

そのつながりを基に、倉敷市は圏域の6市3町とともに、全国に先駆けて高梁川流域連携中枢都市圏を形成し、圏域の経済成長や住民サービスの向上など、持続可能なまちづくりを進めています。

《倉敷市とともに歩む、高梁川流域圏を構成する6市3町の紹介》

● 新見市 / 満奇洞



人口/28,393人 面積/793.29km²

● 高梁市 / 備中松山城



人口/29,307人 面積/546.99km²

● 総社市 / 鬼ノ城



人口/69,599人 面積/211.90km²

● 早島町 / いかしの舎



人口/12,721人 面積/7.62km²

● 矢掛町 / 旧矢掛本陣石井家



人口/13,937人 面積/90.62km²

● 井原市 / 田中美術館



人口/39,284人 面積/243.54km²

● 浅口市 / 国立天文台ハワイ観測所岡山分室



人口/33,965人 面積/66.46km²

● 里庄町 / つばきの丘運動公園



人口/11,146人 面積/12.23km²

● 笠岡市 / 笠岡諸島



人口/47,152人 面積/136.24km²

※人口は令和3(2021)年1月1日現在、面積は令和2(2020)年10月1日現在

2-2 倉敷市の歴史

- 水田開発が進み、小規模ながらも市内全域に人々が点在して居住
- 児島などで土器を使った製塩が開始

山あいの平地において稲作が行われ、その周辺の微高地に人々が生活

- 鉄器が普及
- 布を織る糸づくりも始まる
- 楯築遺跡（庄 国内最大級の墳丘墓）など集落の長の墳墓が造営される



楯築遺跡

後期旧石器時代
(紀元前33,000年～
紀元前13,000年頃)

縄文時代
(紀元前13,000年～紀元前300年頃)

弥生時代
(紀元前300年～紀元300年頃)

古墳時代
(300年頃～)



ナウマンゾウの模型
(倉敷市立自然史博物館)

- 備讃瀬戸の海域一帯は海水面が低く陸地化しており、市内の広域にわたり人々が生活
- ナウマン象が生息し、人々は狩猟生活をしていたと思われる
- 鷲羽山でサヌカイト製のナイフ形石器などが出土
- 出土石器にはおきのしま隠岐島産と思われるものもあり、地域間交流の痕跡が見られる

- 紀元前5000年～紀元前4000年頃には、氷河期から温暖な時代に移行し、海面が上昇(現在よりも数メートル高い)
- 高梁川と入海が作る汽水域が良質な漁場を形成し、人々は狩猟、漁労、採集により生活
- 縄文時代末期には稲作が始まり、高梁川を介した往来も行われる
※中津貝塚(玉島)など、数多くの遺跡から土器や石器、土偶、人骨が出土



- 有力首長たちが古墳を造営
- 市内の島々や海岸地域は製塩の一大中心地として栄える

やたおおつか
箭田大塚古墳(真備 6世紀後半)

1184(寿永3)年

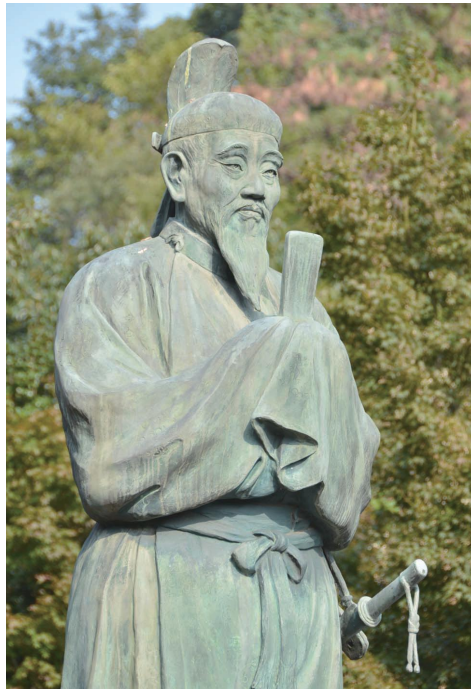
藤戸合戦(源平合戦)



佐々木盛綱像

1183(寿永2)年

水島合戦(源平合戦)



吉備真備像

766(天平神護2)年

備中国下道郡(真備町)ゆかりの吉備
真備が平城京において右大臣となる

飛鳥時代
(592年～)

奈良時代
(710年～)

平安時代
(794年～)

市内に多くの荘園が成立

- 修験道一派が紀州熊野権現を勧請(神の霊を分けること)し、児島の諸興寺(木見)を新宮、熊野権現を本宮、由加山を那智宮として新熊野山と称した(伝承)
- 農地管理のための条里地割が形成
- 製塩が盛んに行われ、奈良時代の税である「調」として児島郡や浅口郡からの塩が用いられる

- 古代律令体制下で畿内と七道に分けられ、地方には国が置かれて郡・郷に分けられた
- 現在の市域は山陽道に属し、備前国児島郡、備中国下道郡、窪屋郡、都宇郡、浅口郡となる



熊野神社



冷泉宮頼仁親王御陵墓

1221(承久3)年

承久の乱に敗れた後鳥羽上皇の皇子、
冷泉宮頼仁親王が児島に配流

1615(元和元)年

備中国下道郡のうち10ヶ村が岡田藩伊東氏の領地となる

1603(慶長8)年

備前国児島郡が岡山藩池田氏の領地となり、下津井城を近世城郭の形態に整備

鎌倉時代
(1185年～)

室町時代
(1336年～)

安土桃山時代
(1573年～)

玉島の丘陵一帯で
亀山焼(土器)が生産される

1584(天正12)年

宇喜多秀家が帯江と早島の間
潮止めの堤「宇喜多堤」を造営

- 児島五流など宗教勢力が強まる
- 連島や西阿知付近が高梁川と瀬戸内海流通の中継地となり、下津井が港として栄える



①北前船模型(玉島市民交流センター歴史民俗海洋資料室)
②綿花 ③旧野崎家住宅

- 玉島港や下津井港が北前船寄港地として発展
- 新田開発が進み干拓地が広がる
- 干拓地は塩分が多いため、塩に強い綿花やイ草を栽培
- 野崎武左衛門らの塩田開発により、瀬戸内海有数の塩田王国となる



錦莞蕙

1926(大正15)年

とうざいようすいしゅはいすいしせつ
高梁川東西用水取配水施設
竣工。公平な農業用水の配
分が可能となる



高梁川東西用水取配水施設

1878(明治11)年

いそぎみんき はなむしろ
磯崎眠亀が精巧な花蕙
「錦莞蕙」を發明

1875(明治8)年

高梁川に架かる
霞橋(初代)が完成

1925(大正14)年

伯備線開通
みなぎ
(倉敷～美袋間)

1673(延宝元)年頃

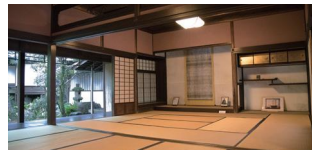
二の水門、一の口水門を整備し、玉島
～高梁間の舟運の要、高瀬通し全通



一の口水門

1868(明治元)年

藩士と村民の命を新政府軍から守る
くまたあたか さいそうてい
ため、熊田恰が西爽亭で自刃



旧柚木家住宅(西爽亭)

江戸時代
(1603年～)

明治時代
(1868年～)

大正時代
(1912年～)

1642(寛永19)年

倉敷村が幕府直轄地、
いわゆる「天領」となる

1850(嘉永3)年

高梁川大洪水

1884(明治17)年

台風による高潮大災害

1888(明治21)年

倉敷紡績所設立

1891(明治24)年

山陽鉄道開通(岡山～笠岡間)



倉敷アイビスクエア
(旧倉敷紡績所倉敷本社工場)

1893(明治26)年

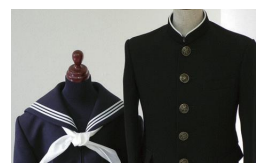
高梁川大洪水

1910(明治43)年

高梁川改修事業着工
(～大正14年)



帆布



学生服

帆布、学生服の
生産が始まる

1928(昭和3)年

市制施行により
倉敷市誕生

1954(昭和29)年

倉敷市に藤戸町編入

1972(昭和47)年

茶屋町と合併

1953(昭和28)年

- 倉敷市に西阿知町、福田町、連島町編入
- 玉島市に長尾町、黒崎町、富田村編入
- この頃から水島臨海工業地帯の開発が本格的に進む

1971(昭和46)年

庄村と合併

1930(昭和5)年

倉敷市に福田村の
一部編入

1952(昭和27)年

- 倉敷市に豊洲村の一部編入
- 市制施行により玉島市誕生

1967(昭和42)年

- 倉敷市、児島市、玉島市の3市合併により新「倉敷市」が誕生
- 水島臨海工業地帯に主要企業が進出し、日本を代表する重化学コンビナートとなる



水島コンビナート

1951(昭和26)年

倉敷市に菅生村、中庄村、帯江村編入

1950(昭和25)年

倉敷市に粒江村編入

1948(昭和23)年

市制施行により児島市誕生

1944(昭和19)年

倉敷市に中洲町編入

1956(昭和31)年

- 児島市と琴浦町が合体
- 玉島市に穂井田村の一部編入

1959(昭和34)年

児島市に郷内村の
一部編入

昭和時代
(1926年～)

1934(昭和9)年

我が国最初の国立公園に
「瀬戸内海国立公園」が指定

1954(昭和29)年

高梁川流域連盟設立

1965(昭和40)年

児島市で国内初の国産
ジーンズの生産が始まる

1945(昭和20)年

水島空襲

1957(昭和32)年

サンクトペルテン市
(オーストリア共和国)と
姉妹都市提携



ジーンズストリート

1968(昭和43)年

「倉敷市伝統美観保存条例」制定

1930(昭和5)年

日本初の
私立西洋近代美術館
「大原美術館」開館



大原美術館

1972(昭和47)年

カンザスシティ市(アメリカ合衆国)と
姉妹都市提携

1973(昭和48)年

クライストチャーチ市(ニュージーランド国)と
姉妹都市提携



下津井町並み保存地区

1986(昭和61)年

下津井保存地区が、岡山県の町並み保存地区に指定

2018(平成30)年

- 平成30年7月豪雨災害
- 小田川合流点付替え事業開始(～令和5年度)

1979(昭和54)年

倉敷川畔地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定



美観地区



玉島町並み保存地区

1995(平成7)年

玉島保存地区が、岡山県の町並み保存地区に指定

2002(平成14)年

- 中核市へ移行
- 水島港国際コンテナターミナル供用開始



水島港国際コンテナターミナル

2005(平成17)年

船穂町、真備町と合併

平成時代
(1989年～)

令和時代
(2019年～)

1988(昭和63)年

瀬戸大橋開通



瀬戸大橋

2015(平成27)年

高梁川流域7市3町で連携中枢都市圏を形成

1991(平成3)年

山陽自動車道
岡山総社～倉敷間開通

2016(平成28)年

伊勢志摩サミット関係閣僚会合
「G7倉敷教育大臣会合」開催



G7 倉敷教育大臣会合

1997(平成9)年

ちんこう
鎮江市(中華人民共和国)と友好都市提携

1975(昭和50)年

新倉敷駅に山陽新幹線が開通

1999(平成11)年

井原線開業

2-3 倉敷市の個性と魅力

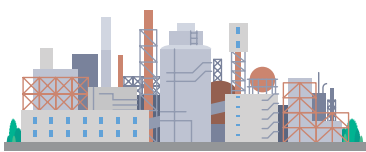
製造品出荷額

データ：令和元(2019)年工業統計調査

西日本の市町村のうち

西日本
第1位

約4兆3,773億円

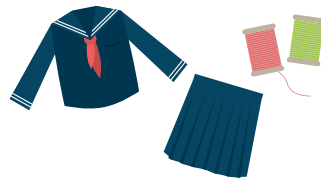


繊維製品出荷額

データ：令和元(2019)年工業統計調査

全国第1位

約1,163億円



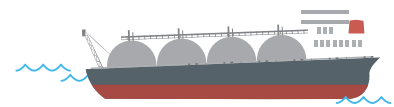
学生服や綿帆布、豊緑の生産量は
全国で高いシェアを誇る

港別船舶入港状況

データ：平成30(2018)年版
海上保安統計年報

全国87港のうち

水島港
全国第1位



マスカット・オブ・アレキサンドリアの 出荷量(加温)

データ：JA全農おかやま調べ

全国第1位

65t
令和元(2019)年



スイートピーの出荷量

データ：倉敷市農林水産部
農林水産課調べ

全国第2位

約960万本
平成30(2018)年度

栽培面積約4.7haで、
県下の90.0%を占める



地理的表示(GI)保護制度[※]

データ：農林水産省登録番号第24号



連島ごぼう

県内初の登録
(ごぼうでは全国初)

平成28(2016)年12月登録



※風土や伝統が育んだ特色ある地域産品を
保護する「地域ブランドの証」

岡山県内の 観光地域別の観光客数

データ：令和元(2019)年岡山県
観光客動態調査

倉敷美観地区
第1位(48年間連続)

328万3千人



出生率

データ：平成29(2017)年人口動態統計
(厚生労働省)

岡山県内15市のうち

第1位

市民千人当たり8.9人



ごみのリサイクル率

データ：一般廃棄物処理事業
実態調査(環境省)

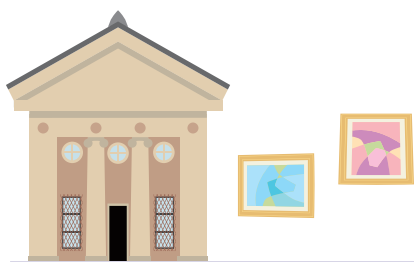
岡山県内15市のうち 第1位
全国の中核市のうち 第1位

51.5%
平成28(2016)年



昭和5(1930)年に
実業家・大原孫三郎が設立

日本初の
私立西洋近代美術館
大原美術館



昭和40(1965)年に
日本初の国産ジーンズ誕生

国産ジーンズ発祥の地
児島



昭和63(1988)年に
道路鉄道併用橋として開通

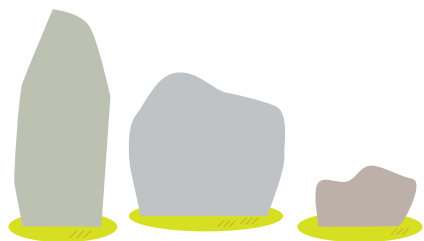
世界最大級の橋
瀬戸大橋

高架部を含めた総延長13.1km



弥生時代後期の
国指定史跡

国内最大級の墳丘墓
楯築遺跡



日本最古といわれる
海水浴場

沙美海水浴場



昭和9(1934)年に
日本最初の国立公園指定

※雲仙・霧島と同時

鷲羽山などの
瀬戸内海国立公園



全国初

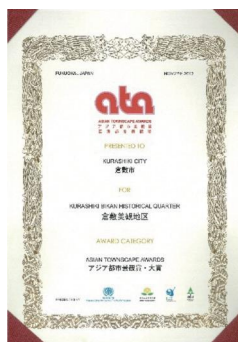
3つの
日本遺産認定



- 一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす繊維のまち～
(平成29(2017)年度)
- 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ
異空間～北前船寄港地・船主集落～
(平成30(2018)年度)
- 「桃太郎伝説」の生まれたまち
おかやま～古代吉備の遺産が誘う
鬼退治の物語～(平成30(2018)年度)

平成24(2012)年に受賞

アジア都市景観賞
「大賞」
倉敷美観地区



令和2(2020)年に選定

SDGs 未来都市



3 倉敷市が広く取り組むべき課題

●平成30年7月豪雨災害からの復興と自然災害への備え

平成30(2018)年7月、未曾有の豪雨災害が本市を襲いました。真備地区では、高梁川水系小田川及びその支川である末政川、高馬川、真谷川、大武谷川の8か所で堤防が決壊、7か所で一部損壊・損傷し、真備地区4,400ヘクタールのうち約1,200ヘクタールが完全に水没。災害発生時に52名もの方が亡くなられ、5,700棟超の住家が全壊・大規模半壊・半壊するなど甚大な被害が生じました。

わが国において、近年では、平成23(2011)年の東日本大震災をはじめ、平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震、令和元年房総半島台風、東日本台風、令和2年7月豪雨など、激甚化する自然災害が相次ぎ発生しており、今後の南海トラフ地震の発生確率も高まってきています。未来に向かって災害に屈しない国土づくりを進めることが必要とされています。

倉敷市においても、被災された皆様が1日も早く安心して落ち着いた生活を取り戻せるよう、真備地区の復興を強力に進め、復興が成し遂げられた後も、すべての市民が安全安心な暮らしを続けられるよう、災害に強いまちづくりを進めていくことが大きなテーマとなっています。



平成30年7月豪雨 高馬川合流付近



平成30年7月豪雨 真備地区での救助活動



平成30年7月豪雨 道路損壊状況

●新型コロナウイルスなど新たな感染症からの危機克服

世界規模での感染が拡大する新型コロナウイルスについて、我が国では、令和2(2020)年1月に最初の感染者が確認された後、感染が急速に拡大し、同年4月には緊急事態宣言が発出される事態となりました。感染症の流行は、人々の生命や生活だけでなく、経済や社会活動にも多大な影響を与えます。

倉敷市においても、感染症に対応する新しい生活様式の普及や、デジタル化の推進による感染拡大防止に取り組むとともに、雇用・事業・生活などへの支援を行い、社会経済活動を守り抜くことが重要となります。



日常生活を営む上での基本的な生活様式 出典:厚生労働省HP

●グローバル化と増加する外国人への対応

外国人観光客の増加は大きな経済効果を生み出すこととなり、新たな感染症の流行下では停滞を余儀なくされるものの、我が国では令和12(2030)年に6,000万人の外国人観光客が訪れることを目標としています。また、近年、地方における外国人の人口が増加しており、地域における新たな担い手として、更なる活躍が期待されています。

地域においては、様々な文化を受け入れ、外国人観光客をはじめとした交流人口を増やすとともに、地域で暮らす外国人が地域の担い手となるよう相互の理解に努め、多文化共生の取組を進めていく必要があります。

● 持続可能なまちづくり(インフラ・公共施設の老朽化)

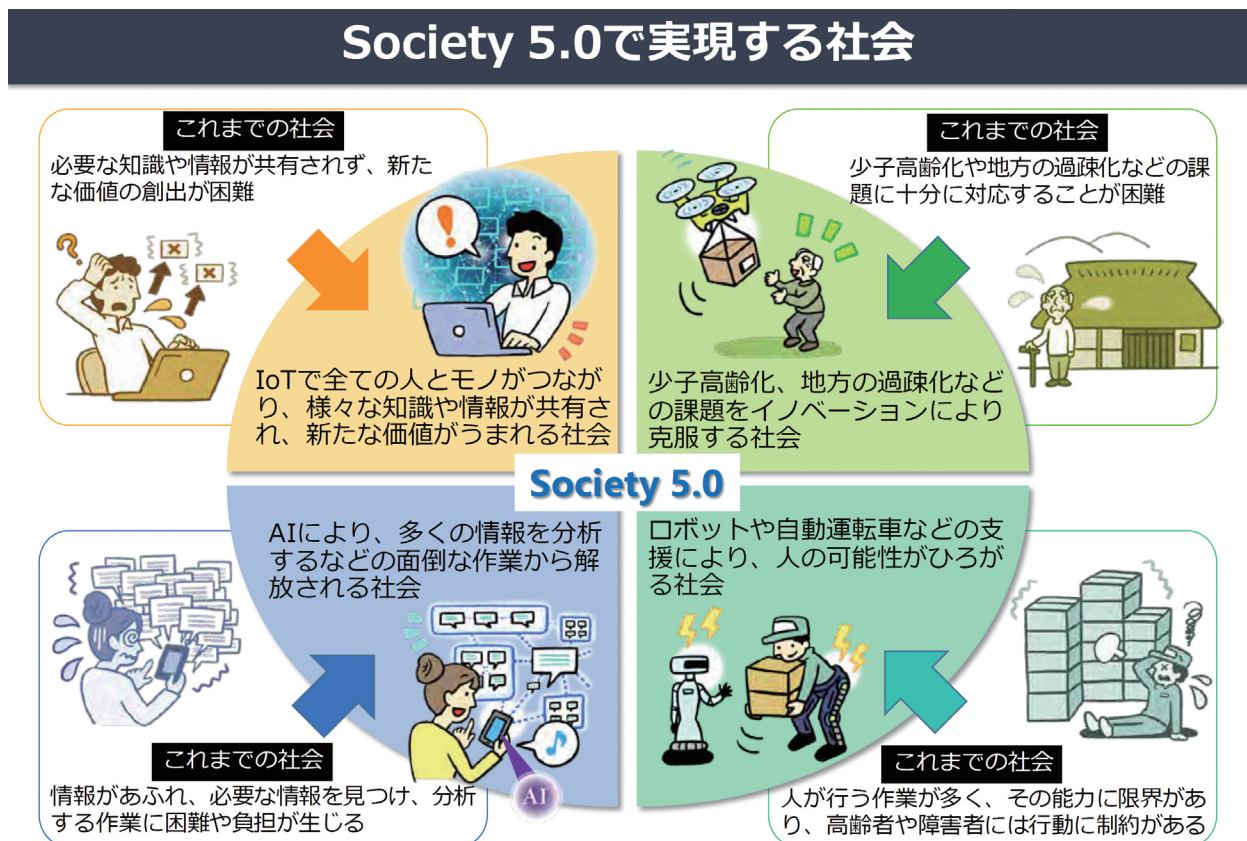
高度経済成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川管理施設、下水道管きよ、港湾岸壁などは、今後、建設後50年以上経過する施設の割合が急速に高くなると見込まれています。その割合を倉敷市でみると、令和元(2019)年3月末で、道路橋15%、トンネル20%ですが、令和15(2033)年には、道路橋は約36%、トンネルは約50%の割合になると見込まれます。

人口減少社会においても、将来にわたり持続可能な都市であり続けるためには、行財政改革を進めつつ、老朽化が進むインフラなどの公共施設を計画的に維持管理・更新することにより、市民の安全・安心の確保や施設の維持管理経費の縮減・平準化等を図るといった、公共施設マネジメントに関する取組を進めていくことが必要です。さらに、公共施設等の全体を把握し、長期的な視点で施設の更新・複合化・長寿命化と適正配置を進めることで、財政負担の軽減・平準化を図ることが必要です。

● 地域の課題解決につながる Society(ソサエティ)5.0の実現

Society5.0とは狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指すものです。IoT(モノのインターネット)やロボット、人工知能(AI)などの先端技術を活用し、仮想空間と現実空間をつなぎ、モノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ(無駄なく)提供でき、地域、年齢、性別、言語等による格差をなくしてきめ細かな対応が可能となるなど、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のことです。

我が国は、このSociety5.0の実現をめざしています。実現すれば、ワーク・ライフ・バランスの改善や誰もが働きやすい環境づくりの推進にもつながり、少子高齢化、貧富の格差などの課題が克服され、希望のもてる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会になるとされています。



出典：内閣府資料